

令和3年度 にぎわい・交流海道ネットワーク総会（WEB形式） 【次期開催地挨拶】



みなさんこんにちは。北海道稚内市長の工藤です。

私からわが町のご紹介を兼ねて、本ネットワークの次期開催地としての挨拶をさせていただきます。

稚内市はご承知のとおり日本の一番北に位置し、宗谷海峡を隔てて対岸のロシア連邦サハリン州戦前の樺太ですが、そこはわずか43キロしか離れていない人口約3万3千人、行政面積が761㎡キロの水産、酪農そして観光を基幹産業とする町であります。

本市は戦前はもちろんであります、昭和40年代後半からの戦後の旧ソ連の時代、さらにはロシアとなった現在もサハリン州のいくつかの街と盛んに交流を進めておりまして、平成14年からは経済や文化活動の窓口として州都ユジノサハリンスク市に稚内サハリン事務所を置き職員を配置しているほか様々な面でサハリン州都は深い繋がりをもっておりましてあります。

かつての漁業における操業協力をはじめ、平成14年には稚内建設会館とサハリンの企業が合弁会社を設立するなど民間における経済交流も大変盛んで、現在も毎年サハリンから民間人を研修生として招いて日本の経済体制を学んで頂くそんな機会を設けておりますが、残念ながら稚内・コルサコフ間の定期フェリーは平成7年からの約20年間の実績がありながら、現在は休止中ということで、物流を絶やさないため稚内港がチャーターの貨物船などによってサハリンとの経済活動を継続しているところであります。

基幹産業のうち、特に水産業はかつての沖合底引き船による沖洋漁業基地から今はホタテなどを中心とした沿岸漁業が盛んで、新型コロナの影響を大きく受けながらも、沖合漁業を含めた令和2年の水揚げ高は約118億円に上がったところであります。

稚内の豊かな自然の中ではぐくまれた海の幸山の幸更にはこれら新鮮な資源を活かした生鮮食料品など市が平成24年から稚内ブランドとして認定をしており、ホタテ、蛸しゃぶ、宗谷黒牛、稚内牛乳などみなさんにおすすめしたい品々がたくさんありますので、稚内において頂いた際は是非ご堪能下さい。

また稚内を代表する観光ポイントとしては、宗谷岬にある日本最北端の地の碑、宗谷丘陵の白い道、さらには戦前の樺太航路における稚内港のシンボルでもある土木遺産の北防波堤ドームなどがあり、稚内港から50分でフェリーで渡る日本海に浮かぶ通称利尻富士は利尻礼文サロベツ国立公園として、隣の礼文

島と合わせて毎年多くの方が訪れています。

稚内は風の街としても知られており、現在市内には大小合わせて83機、106メガの陸上風車が稼働して、市内の消費電力の約120%を再生可能エネルギーでまかっていますが、今後は公共施設への電力の需給活動や地域電力会社の設立に向け、官民挙げて取組を進めているところでもあります。

併せて本市の周辺地域で現在工事が進められているソーラーこれに合わせてこの地域に600メガ、約150機の陸上風車の建設が計画されており、今後風車の陸揚げによって稚内港始まって以来のにぎわいを見せてくれると大きな期待を寄せているところですが、ちなみに申し上げますと、令和2年の稚内港の貨物取扱量はコロナの影響を大きく受けながらも、約146万トンということで背後圏はもとより利尻島礼文島やサハリンへの輸送拠点となっているところでもあります。

また、クルーズ船に関しては平成30年稚内港末広埠頭に11万トン級のクルーズ船岸壁が整備されました。昨年今年とコロナの影響で残念ながらクルーズ船の寄港はありませんでしたが、来年はコスタ・セレーナなど12隻のクルーズ船の寄港が予定されているところであります。

今後も日本海にぎわい・交流海道ネットワークの一員として会の発展に貢献したいと願い、来年は皆様のお出でを市民とともに心からお待ちをしておりますので、是非お越し下さい。

あらためて本ネットワークのそれぞれの港の一層の発展を心からお祈りを申し上げ、次期開催地としての挨拶といたします。ありがとうございます。